



生い立たす 愛の母校よ

（120年刻まれた時）

1902 » 2023

1902 » 1923

明治35年～大正12年



開校当時の校門

限りなき夢に向かい学びに喜びを重ね、
社会の一員として目覚めゆく女学生たち

●高等女学校の位置 来る四月を以て新設さるべき高等女学校の位置は今日尙ほ未定なるも縣會の豫算類は敷地一坪一圓に過ぎざるを以て此範圍内に於て適當の地所を得んこと覺束なきも市の西方泉町と新町との南裏なる神明神社の附近は交通の便利も眺望もよく又た市塵をも避け居れば比較的適當といふを得べく而して一部の地主は地所を寄付するも差支なしとの意見を持し居れば當局者は之れに意を傾むるものあり

当時の新聞記事(敷地の決定)
明治34年2月

●高等女学校の工事着手 既記の如く市内新町裏神明社附近へ新築の筈なる高等女学校は敷地の土盛り工事を競争入札に依りて中巨摩郡龍王村金丸菊造へ金二千七百餘圓を以て請負はしむることに決したれば一兩日前より該工事に着手せり

当時の新聞記事(工事の着手)
明治34年8月

明治19年に中学校令が發布され尋常中学校が発達するのに伴い、女子教育も注目され始めました。そして32年に中学校令が改正されると、新たに女子の高等教育を目指して高等女学校令が公布され、これを契機にして日本の女子教育は急速な発展をみせていったのです。「女子教育無用論」もある中、山梨県においても女子教育振興の要請が高まり、これに応えて県立高等女学校の設立が33年に決定されました。

明治35年5月1日、「女子に須要ナル高等普通教育ヲ施ス」を目標に掲げ、修業年限4年、定員400名として「県立山梨県高等女学校」は市内飯沼村の地(現寿町、YCC県民文化ホール)に開校。県下唯一の女子高等普通教育機関として、輝かしい伝統の一步を踏み出したのです。

38年5月、県立学校の校名改称が告示され「山梨県立高等女学校」に改

歴代校長



初代
中村 正持



第2代
林 光徳



第3代
内田 幾次郎



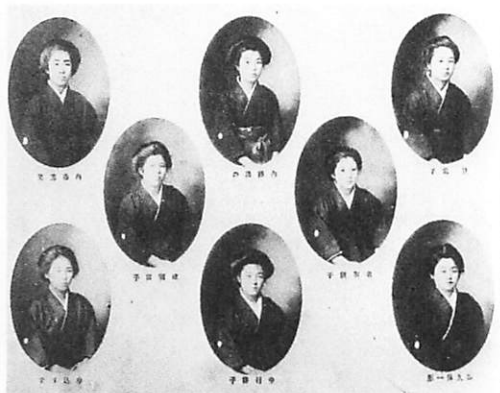
第4代
伊藤 裕



第5代
新井 儀蔵



創立当時の校舎 松林は本校の象徴だった



卒業アルバム 紋付きが正装であった(大正9年)



補習科卒業生 補習科は大正9年に復活(大正11年)

校歌



ト調 四分ノ四拍子

校歌制定 本多亀三作詞/三谷良太作曲
明治40年7月

称。40年には校歌も制定されました。大正3年に第一次世界大戦が始まり、大戦以後日本は、ロシア革命などの世界的大事件や大正デモクラシーの影響を受け、本県でも中等学校への進学熱が急速に高まりました。列強と伍していくためには、国策として教育奨励策をとる必要があったことや、女子にも結婚や育児にたずさわるとしてもある程度の教育が必要だという自覚が生じ、本校でも大正3年から10年までの間の合格率は30〜40%の難関であったと記録されています。

大正8年に発足した原敬内閣は文教政策として高等教育機関の拡充を推進。11年「山梨県立第一高等女学校」に改称したこの時、本校の定員は本科800名、補習科50名の計850名となっていました。

●入學試験問題 高等女學校にては去る二十日より入學試験執行中なりしが一昨日にて終了したり試験問題は左の如し

國語科 二時間

一 左の文章を解釋すべし
 人には伶俐。も痴鈍なるもあれど、痴鈍なりとて、自ら、怠るべからず、痴鈍なりとて、自ら、棄つべからず、馬は疾く走るものなれども、勉めずしては、遠きに到ること能はざるべし、牛は、歩の遅きものなれども、久しくして、怠らざる時は、千里の遠きにも達すべし、されば、おのおの、至誠の心を以て、忍耐の念を失はず、おのが志すところを、貫かむと、心かくべきなり、

二 左の章句に讀みと解釋を施すべし
 イ 巧に偽らんよりは、拙く誠あれ、
 ロ 暫時ても暇ある時は、心を専らして修學すべし、朝に温めて、夕に冷すことなかれ、
 ハ 洗濯、質素、

作文科 二時間

高等女學校へ入學を勧むる文
 運動は大功あり

算術科 一時間半

一 職人あり十時卅分の間に壹圓三拾錢の賃金を得たり一時間の賃金何程
 二 一個壹圓五拾錢の帽子二十四個を以て煙草二十五斤と換へしに五圓を損せり煙草一斤の代何程

三 6 6+2 6-2
 13 13+2 13-2

右の分數を大小の順序に排列せよ

入學試験問題
 第2学年志望者だけに行つた(明治35年4月21日)

●身体検査と開校式 山梨高等女學校にては來る廿八日一學年生徒の身体検査を施行し直ちに入學を許可するよし又同校開校式は未だ確定せざるも多分は來月一日ならん

●入學試験及第者 此程執行したる高等女學校二學年の入學試験に及第したる者如左
 若尾れん、飯田俊子、東浦あけ、中村發子、奥村もと、丸茂ひで、小澤こう、淺川たきよ、佐藤さだ、秀島田鶴子、溝部しづ、藤井あけ、相川とく、橋野ふみよ、石原りん、加賀美とせ、末木たけの、松浦ひめ、樋口すみよ、八田富子、石原やすよ、跡部さとし、深澤よう、市川とみ、田邊のり、野呂潮いせ、古屋りう、田中いくの、平賀はな、森とみあ、上田たか、桑嶋まさき、早川ます、森澤さのあ、野尻てふや、小宮山たまる、小林とよ、望月くら、岡治の、山田さとし、萩原さかあ、白井ちよ、小林しづる、内藤ます、菅沼まら、内田たか、田村ふたば、歌田ひで喜多嶋てい、平山やの

入學試験及第者 第2学年(明治35年4月23日)

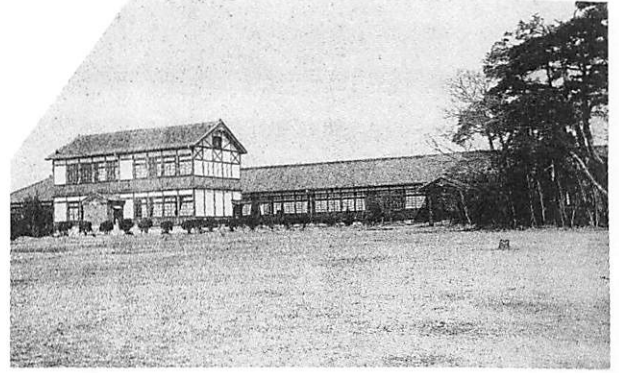
一年表

年表	高等女學校校令公布
明治32年	県知事加藤平四郎、高等女學校設立議案を通常県会にはかる。
明治33年	甲府市寿町に地を選び起工する。
明治34年	校舎竣工、文部大臣の認可を経て、5月1日県立山梨高等女學校と称し、開校式を挙げる。修業年限4カ年、生徒定員400名。前高知県師範學校教諭中村正持氏が初代校長に就任する。
明治35年	中央線が八王子から韭崎まで開通日露戦争がはじまる。
(1902)	山梨県立高等女學校と改称する。皇太子殿下が御來校になる。第一次世界大戦はじまる。
明治36年	補習科を廃し、生徒定員本科400名、実科120名、計520名に改める。
明治37年	甲府市内でバス營業開始
明治38年	生徒定員本科600名、実科150名、計750名に増加する。
明治45年	補習科を復活する。
大正3年	生徒定員本科800名、実科100名、補習科50名、計950名に増加する。
大正4年	山梨県立第一高等女學校と改称する。実科を廃し、生徒定員本科800名、補習科50名、計850名に改める。
大正5年3月	関東大震災
大正6年	
大正9年	
大正11年	
大正12年9月	
(1923)	



運動会での木環体操(明治43年)

木環体操は、スウェーデン体操の一種で、姿勢の矯正と骨格の欠陥の治療のために行われた。写真は秋季運動会での木環体操の様子。教育・医療体操として考案され、日本の体育教育に取り入れられたのは、明治35年のこと。以後、重要な科目として盛んに行われた。



大正8年に成立した原敬内閣は、文教政策として高等教育機関の拡充を積極的に行った。これに伴って翌年本校も本科800名、実科100名、また補習科も復活して50名となり、計950名の定員となった。

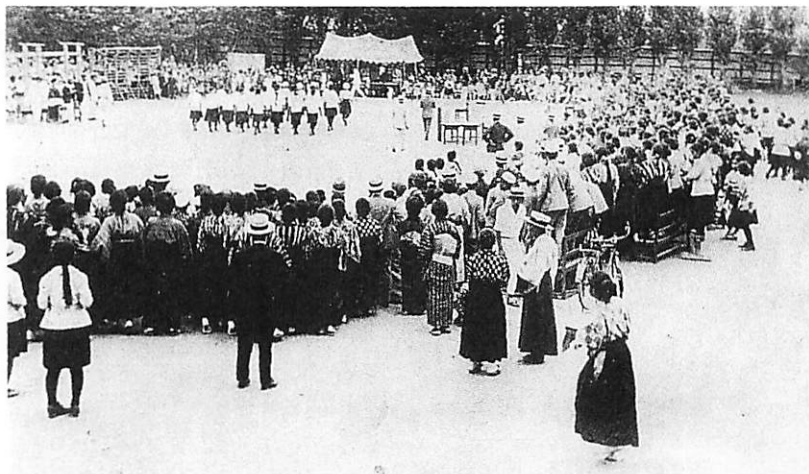


作法実習風景(明治44年頃)

膳の上げ下げから、襖の開け閉めまで日常生活に不可欠の作法を習った。



同窓会会報



女学生のテニス試合(大正11年)

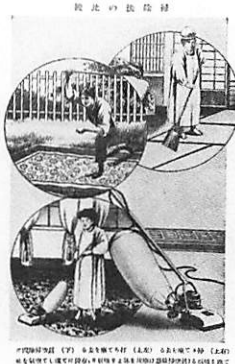
1924 » 1947

大正13年～昭和22年

時代に負けることなく、希望を胸にひたむきに生きる、
輝く乙女たちの姿があった。



家事教科書 昭和2年発行



中等學校で 武道を正科に

文部省の武道振興策

文部省ではスポーツの興隆を目的として、
 来る十八日第一回講習会を開き、
 教育勸励委員の委員の監督に當
 つては特に新道の確立を促進す
 べき旨を述べ、
 本部長大塚大將を議長の中に加
 へて一般社団法人に學校各方面
 わたる武道振興方を決定する
 こととなつたが一般社団法人に
 對する振興方は講習會の議決
 決議案に待つこととし、
 學校方面に關しては教育の如く中
 等學校以上の學校において柔道、
 剣道、
 射撃の振興の一助として課して

る程度では到底これが普及振興を
 はかることは得ないので、
 は早く中等學校に農工商の
 各中等實業學校においては、
 れも武道を正科として必修せしむ
 ることにせよ、
 來學するに四月よりこれを實
 施した場合には、
 學校以上の學生生徒の武道大會を
 催す、
 中等學校の振興の方針で
 あると。



裁縫教室での様子

大正13年、校名は「山梨県立甲府高等女学校」へと改称され一般には「甲府高女」の名で親しまれるようになり、上級学校への進学熱の高まりを受け、この年生徒定員は本科800名、補習科100名の計900名。しかし、第一次世界大戦後の戦後恐慌に加え、関東大震災の甚大な被害を抱えた日本は昭和恐慌へと陥り、昭和5年には全県的に中等学校の退学者が多く、本校でも11名の退学者が出ました。

昭和6年の柳条湖事件をきっかけに起こった満州事変により日本は国際連盟を脱退。国際的な孤立と苦境を一層深め、さらなる激動の時代に入っていったのです。8年の本校校友誌には「満州事変」や「連盟脱退」などの時代を反映するものが満載され、9年には剣道部が創設。生徒は弓道部か剣道部のいずれかに所属することとなりました。

歴代校長



第6代
山中 恵教



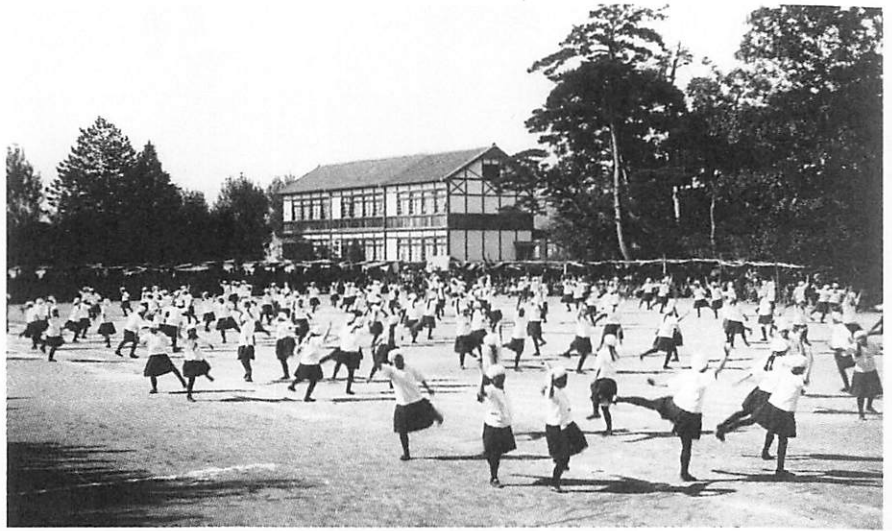
第7代
安島 弘



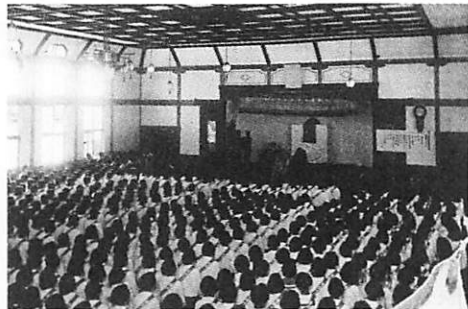
第8代
幸田 甫



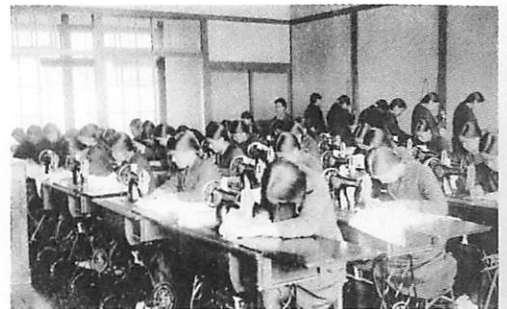
第9代
内藤 竜助



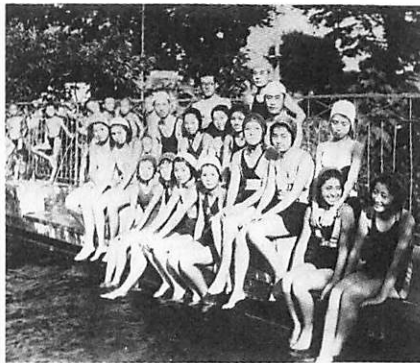
運動会風景 近代的な女学生 自作のくくり帽子(まんじゅう帽子)でダンス



愛国子女団発団式。「報国」の精神のもと、
挙国一致の戦争体制が作られていった



ミシン教室



水泳教室(昭和16年頃) 国民皆泳



当時の服装 洋服はまだめずらしかった

昭和12年7月、日中戦争が始まり、翌年国家総動員法が成立すると全校生徒による甲府高女勤労報国隊を結成。これは翌年、軍事後援や社会事業に参加するという目的を明確化して「愛国女子隊」に再編成されました。太平洋戦争が始まると授業内容はさらに戦時色一色となり、17年6月のミッドウェー海戦での敗北を境に動員体制は一層強化されました。生徒たちのスカートはモンペに履き替えられ、学年ごとにそれぞれの場所です奉仕作業をすることになったのです。

昭和20年7月、甲府大空襲により校舎は全焼、先生らがミシンだけは救出。生徒には死傷者はいませんでした。8月15日終戦。21年3月来日したアメリカ教育使節団は戦後日本の民主化政策の一貫として教育制度改革を勧告し、教育基本法の制定とともに六・三・三・四制を採用。生徒たちも復興に向けて力強く歩みを進めていきました。



山梨県立甲府西高等学校同窓会理事
女声合唱団リラ会長

古澤 夏喜

甲女42回(昭和21年)卒

PROFILE

1951年に国立音楽大学ピアノ科卒業
山梨県立高校教諭を経て
県芸術文化祭、県芸術祭、
県民オペラ運営委員を歴任
1993年山梨県文化功労章受章
現在は若草開ピアノ教室主催
令和5年度第67回コンサート開催

1942年、大東亜戦争がはじまり、甲府高女に入学いたしました。入学して間もなく創立四十周年でした。物資の制限が入り、入学してせっかく買った革靴はだめで、教室でみんなで赤い鼻緒を作り、白木の下駄通学をしたことを覚えております。

一年の夏、全校生の遠足があり、藤壘の滝、毛無山、松原湖を抽選で決めることとなりました。私は松原湖が当たり、仲の良い友達ほとんどいなくて小海線は貨車。駅から坂道を上り湖にやとついたらと思ったら、1時間くらいしかいられませんでした。何もない湖でした。

秋(昭和17年18年)、早川橋往復の強歩大会。学校を出て千秋橋から浅原橋をずっと走り続け、検印所が鯉沢でした。富士川沿いにだんだん歩き始め、月見橋当たりだったでしょうか、3年生の1位の先輩に会いビックリでした。私は早川橋の石の上でおにぎりを食べたらもう歩く気持ちはなくなり、リタイヤ。バ

スで帰りましたが、友人は何人も学校へ帰ってきました。

長松寺橋の下に少しばかりの学校農場があり、農事試験場(現美術館)や農家への手伝い、今思うと役に立っていたのかなと思います。食料のない時でしたからお昼ご飯をいただいたことは嬉しいことでした。

三年生の一学期で授業はなくなり、私たちの学年は東京から疎開してきた貯金局の学徒動員でした。二か月の準備教育を受け、岡島、甲府教会、内藤呉服店と三か所に分かれ仕事をしました。時々先生方が回ってききました。

1945年春、別れ別れに仕事をしていたけれど、学校の講堂に集まり、久しぶりに友人と一緒にいられたことは嬉しいことでした。学校の校舎の廊下のあちこちで一年上の四年生の方たちが軍の何か仕事をしていました。

卒業してだいぶたってから知りましたが、お弁当を持参でき

ない友もいて、市外から通学してきた友達が分けてあげていたそうです。

七月七日の甲府空襲で学校は全焼、防火壁だけが残っていましたが、近寄らないようにと言われました。それから数か所の分校でささやかな授業をしていただき、甲府は焼失を免れた穴切小学校で床に座って授業を受けました。卒業式は焼け残った甲府工業で久しぶりに全員集ったことは本当に嬉しいことでした。甲府空襲もあり、食べ物、着るもの、何もなかった少女時代でしたが、一日一日は楽しかったです。



明治41年3月28日
卒業式の写真
大変貴重なものです

に心から感謝いたします。

九十を超えた今、伝統ある母校のあることは幸せです。本當

時代の変遷。どんな時も躍動感にあふれて

1948 ≫ 1976

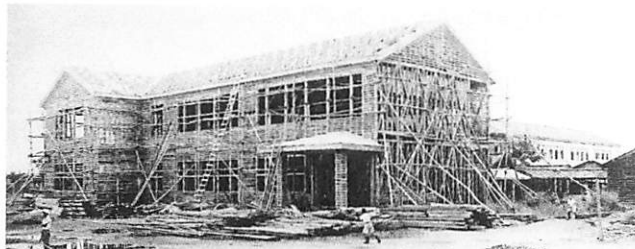
昭和23年～昭和51年



修学旅行の帰りは、神戸から横浜まで1万2千トンの氷川丸に乗船。宿泊は三等船室。畳の部屋だった。(昭和24年5月29日)



生徒会役員(昭和24年)



本館の建築(昭和26年)

時代の流れの中、変化を遂げる母校。その中で生徒は常に未来を見据え挑戦し続けた。

昭和23年4月、学制改革により「山梨県立甲府第二高等学校」となりました。24年に第二期復興校舎が出来上がり、それまでの分散授業は終了したものの校庭には未だ戦災者住宅が建ち並んでおりました。これが撤去され学校としての形態が整ったのは26年3月になってからのことでした。

総司令部から強く主張され、学科は普通科に加え、被服課程、食物課程も併置。男女共学制も推進され本校にも初めて150名の男子定員が設定されました。しかし28年になって男子定員枠を外したことから男子入学希望者は減少、30年度を境にして事実上男女共学は廃止となり再び女学校へと戻っていったのです。

30年代に入るとクラブ活動も盛んに行われるようになり、スポーツ、文化両面において好成績をおさめました。

昭和42年に発足した甲府一高、甲府南高による総合選抜制度が定着す

歴代校長



第10代
伊藤 泰司



第11代
小林 定雄



第12代
武藤 英



第13代
岩本 繁人



第14代
鳥居 礼三

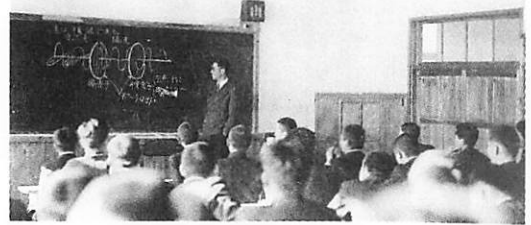


校庭の整備

本校々歌生まる
尾崎喜八 作詞
平井康三郎 作曲

27年10月、尾崎喜八作詞、平井康三郎作曲による新しい校歌が誕生した。

作曲者の言葉



昭和26年男女共学に踏み切り、120名の男子が入学して、校内の空気が変わった。しかし、男子の入学者が少なく、30年には再び女子校に戻った。



校歌合唱



入学式の日(当時としては県下第一の講堂であった)



30年代に入るとクラブ活動が大変活発になり、スポーツ、文化両面で好成績を収めた。

総合体育大会			
第1回準優勝	第7回準優勝		
第2回 "	第8回優勝		
第3回 "	第9回 "		
第4回 "	第10回準優勝		
第5回 "	第11回 "		
第6回優勝	第12回優勝		

生徒会誌第6号より

るのに伴い、本校の総合選抜への組み入れが次第に論議されるようになりました。45年の県高校入学者選抜制度審議会においても「甲府二高を早急に適地に移転した上で、総合選抜に組み入れるのが望ましい」という答申が行われ、48年8月には甲府市下飯田町にて新校舎を起工。49年7月の県教委定例委員会での正式決定を経て、50年4月1日、1年生定員470名中男子生徒261名の入学をもって本校は総合選抜による男女共学校として発足しました。生徒会活動にも野球部、サッカー部、ラグビー部、柔道部、剣道部などが新設されるなど、多くの場面で新しいエネルギーが生まれていったのです。

昭和52年4月、「山梨県立甲府西高等学校」と改称。この年に全学年で男女共学となりました。

歴代校長



第15代
高遠 啓一



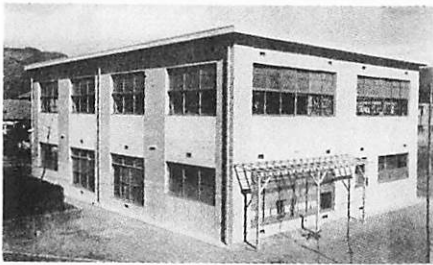
第16代
佐野 録郎



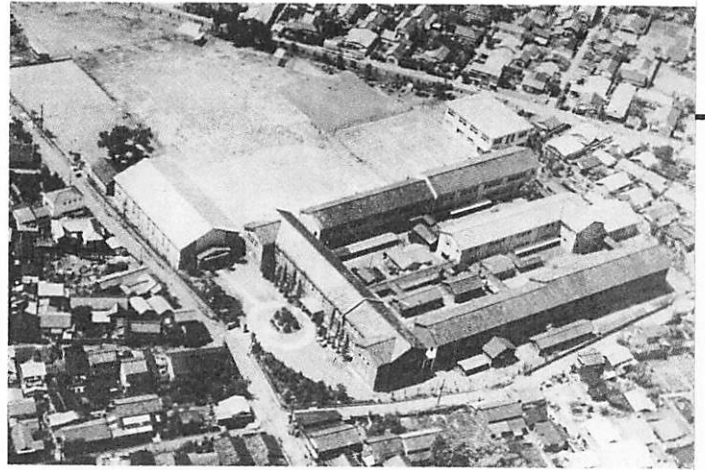
第17代
平塚 武



第18代
高柳 雅蔵



図書館外観 鉄筋コンクリート造。階上は閲覧室・整理室、階下はブラウジングルーム・職員閲覧室・視聴覚室ならびに同窓会館。若干の壁面を残して、大型ガラス張りのモダン・ライブラリーの設計となっている。



昭和35年頃の校舎全景



下飯田に完成した甲府二高新校舎。これがそのまま現在の甲府西高の校舎となっている。



山梨日日新聞
(昭和49年7月11日)

年表

昭和23年4月	学制改革のため山梨県立甲府第二高等学校となる。
昭和26年4月	男女共学実施となる。
昭和27年10月	定時制課程を設置する。
昭和28年10月	雨天体操場兼講堂が完成する。
昭和28年11月	創立50周年記念式典を挙げる。
昭和28年10月	男子生徒が共学問題で県教委を不信任とし同盟休校を起こす。
昭和33年7月	北巨摩郡長坂町小荒間に八ヶ岳寮が完成、開設する。
昭和34年1月	独立図書館(同窓会館を含む)が完成する。
昭和35年10月	創立60周年記念式典を繰り上げ挙げる。
昭和37年10月	体育館並びに体育部室竣工。
昭和38年4月	家庭課程の生徒募集を停止する。
昭和39年10月	東京オリンピック開催
昭和45年2月	日本万国博覧会開催
昭和47年3月	定時制課程を廃止する。
昭和47年5月	沖縄返還
昭和48年10月	創立70周年記念式典を挙げる。
昭和48年8月	下飯田新校舎の建設に着工する。
昭和49年7月	総合選抜制に移行することが決定。
昭和50年2月	下飯田町288番地に移転する。
(1975)	総合選抜校として発足し、男女共学校となる。
4月	校舎落成竣工式。



羽田 喜久枝

甲府西高等学校同窓会副会長

甲府二高17回(昭和40年)卒

PROFILE

昭和21年9月生まれ 高17回生
 昭和44年3月 山梨大学学芸学部卒業
 同年4月より高校教師として勤務
 (担当教科は数学)
 趣味 書道 テニス 野菜作り 読書

昭和三十七年四月、山梨県立甲府第二高等学校に入学しました。承知はしていたものの、周りは女子ばかりという環境に戸惑いながら始まった高校生活でしたが、そこは女同士、遠慮なしの楽しいものでした。多くの先生方がニックネーム(例えば、「カマキリ」「玉ネギ」等々)で呼ばれ、それが又びつたり。「よくぞ名付けた!」と、先輩方の感性にビックリしたものです。ちなみに、我がクラスの担任は「おすわり(正月のおそなえ餅です)」と呼ばれていました。

当時学校には、八ヶ岳の麓に学校寮があり、夏休みにはいろいろな行事が計画されました。私が参加した宿泊学習会は、大学入試のための勉強会でしたが、自由時間には付近を散策したり、おしゃべりに花を咲かせたり。又、先生方の「いつでも質問に来ていいよ。」と言うやさしい言葉に甘えて、夜中の一時頃、休んでいらつしやる先生



昭和39年7月
八ヶ岳寮の
宿泊学習会において

担任の金子先生と



参加者全員で記念写真



クラス会の後、リニューアルされた東京駅をバックにパチリ!

に質問に行つて…なんて、今思うと、先生方には色々ご迷惑をおかけしていただであらうことが、たくさんありました。卒業してから四年後の四月、再び母校の校門をくぐりました。教員としてのスタートを甲府二高から始めることになったからです。高校生の時お世話になった先生方も大勢いらつしやり、在校生も同窓の先輩として接してくれ、充実した二年間を過ごすことができました。

退職後は、同窓会総会の当番学年として招集があり、それ

以来同窓会に関わり、今日に至っています。

このように多くの時を共有してきた甲府二高(甲府西高)ですが、その中でも特に、高校生だった甲府二高での生活は、何ものにも代え難い大切なものです。なつかしく、走馬灯のように思い出が浮かんできます。

甲府二高から甲府西高へと校名が変わり、男女共学となつて、益々発展してきた母校ですが、さらなる発展を心よりお祈りしています。

未来を切り開き、自己を確立するために

1977 ≫≫ 2012

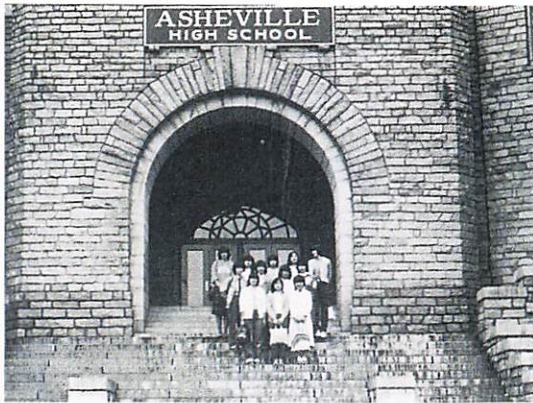
昭和52年～平成24年



オーストラリア・キララ高校正門での本校留学生



校舎が新築され、生徒会誌は「鳳凰」と名付けられた。
(昭和52年度)



アメリカ・ノースカロライナ州・アッシュビル高校で学ぶ本校の海外短期留学生



国際教育振興部設立
(昭和54年)



コンピューター室設置(昭和61年2月)



57年10月、創立80周年にあたり、記念式典、日展審査員花里金央氏の作になる記念像「大空」の除幕式、記念講演会などが盛大に催された。

現在の校地で共学、単位制と形を変えながら、進学校としての新しい歩み始める。

平成元年1月、第一回大学入試センター試験が実施され本校からも多数の生徒が参加、希望進路に向かって挑戦をしました。同4月には学校、地域の多彩な文化活動に資するセミナーハウスとして「鳳凰館」が竣工。
平成4年、創立90周年を迎え、記念式典、講演会、演奏会、展覧会、同窓会より寄贈された「旧校歌碑」の除幕式などが行われました。

昭和57年10月、創立80周年にあたり記念式典、日展審査員花里金央氏による記念像「大空」の除幕式、記念講演会などが行われました。また記念事業として八ヶ岳寮研修棟の建設事業が58年6月に竣工。同年、ハンセン病患者救済に尽力した小川正子さんの顕彰碑が同窓会より寄贈され、除幕式が開かれました。
昭和61年のかいじ国体では女子体操部員が出場するなど、部活動も活発に行われ、大きな成果を上げました。

歴代校長



第24代
神田 龍夫



第19代
高畑 敏



第25代
加藤 正明



第20代
浅川 宗三



第26代
志村 洸



第21代
渡邊 弘



第27代
三科 嘉徳



第22代
松本 武秀



第28代
足達 輝夫



第23代
川手 千興



平成元年4月、学校、地域の多彩な文化活動に資するセミナーハウスとして鳳凰館が竣工した。



旧校歌碑除幕式(平成4年11月)



本館正面
校章の取り付け工事(平成4年3月)



耐震だけでなく全面的に改修工事が行われた。(平成11年)

平成9年、本校は総合選抜から抜けて、全県下から生徒を募集する全日制単位制高校として生まれ変わりました。初めての推薦入試も行われ、4月には新制度による第一期生319名が晴れて入学しました。この改編によって、生徒の授業選択の幅が広がり、少人数制により生徒の能力、適性がさらに発揮できるようになりました。

平成14年には創立100周年を迎え、記念式典が盛大に執り行われ、さらに16年には同窓会100回記念総会が開催されるなど、本校の歴史と伝統を感じる感慨深い行事が挙行されました。

平成20年「西高ならではのステージ」で思い思いの高校生活をデザインしてほしいとの意味から「n stage」が誕生しました。

歴代校長



第31代
松土 清



第29代
原 敏彦



第32代
八巻 良一



第30代
滝田 二三雄



「心豊かな高校教育」外部講師による授業風景

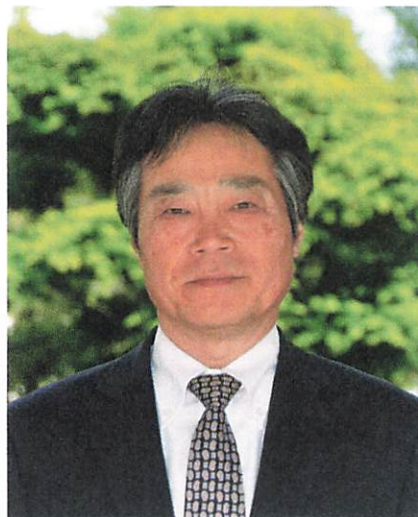


第4回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜 高吹連理事長賞受賞
ミュージックエイト賞受賞(平成14年8月)

年表

昭和52年4月	山梨県立甲府西高等学校と改称する。
(1977)	
昭和56年11月	屋外プールおよび付属施設が完成する。
昭和57年2月	創立80周年記念像「大空」を建立。
昭和58年4月	校歌碑設置
昭和59年2月	鳳凰章が制定される。甲府昭和高校が加入し、五校選抜入試となる。
平成元年4月	鳳凰館竣工式、祝賀会、記念演奏会
平成4年11月	創立90周年記念式典
平成6年4月	総合選抜制度学校希望制導入。
平成9年4月	全日制単位制高等学校へ改編。
平成8年3月	全県下から生徒を募集する。
平成9年	県の単位制高校への改編募集に応募することに職員会議で決定。
平成11年3月	全日制単位制高校へ改編。
5月	二期制も導入。校舎全面耐震改修。
平成14年	耐震大規模改修完了
平成16年	八ヶ岳寮廃寮
平成17年	学校創立100周年記念事業
平成18年	ポロシャツ導入
平成19年	県下初の65分5時限授業実施。
平成20年	理数探究クラブ発足・ロゴマーク制定
平成21年	すべての高校が全県一学区制となる。
	n. stage 誕生。
	体育館床改修・格技場耐震補強
	短期留学先をキャンベルホール・スクール
	(カリフォルニア州)に変更。
	屋上防水工事
平成22年	110周年記念事業で図書館エアコン改修、
平成24年	自習室整備、学校HP改修。
(2012)	

がんばれ！西高生 くじけるな！西高生



専修学校 山梨予備校 校長

斉木 邦彦

高校30回(昭和53年)卒

PROFILE

高30回生

1959年4月22日生まれ。

1975年4月甲府第二高校入学。1978年3月甲府西高校卒業。東京大学文学部東洋史学科卒業後、県立高校世界史教員に。甲府西高校に教諭として2回、のち教頭、校長として勤務。高校教育課長、総合教育センター所長、教育次長、教育長を務めて退職。現在、専修学校山梨予備校校長。

母校甲府西高校が創立百二十周年を迎えました。心からお祝いと感謝を申し上げます。

私は寿町から下飯田に移転したばかりの校舎で、二年間を二高生、一年間を西高生として過ごし、教員になってからも縁があつて四回赴任しました。その間、創立九十周年、百周年、百十周年の節目のときに西高に在職していたのは、たいへんありがたい幸運でした。

一つの勤務もそうですが、なかでも校長として務めた最後の二年間は本当に幸せな日々でした。創立百十五周年記念事業と銘打って「きょうは校長室で昼食会」を生徒諸君の理解と協力を得て各クラス十四、五名が参加、数か月にわたって計二十四回実施しました。

北館校舎の壁面に横断幕の形で、校歌三番後半部「秀づべき資性のさまざま、生ひ立たす愛の母校よ、偲へなむとこしへかけて、甲府なるわが西高」を掲示しました。西高は西高生と西

高卒業生を大事にする学校でありたい、との願いを込めてのことでした。

「がんばれ！西高生、くじけるな！西高生」。このフレーズは年次主任の時から使っています。高校時代は人生で最も多感な時期で、感動的な場面に多く出会う一方、努力してもうまくいかず、つらい思いをすることもたくさんあります。しかしその後の人生で受け止め方が変わります。今は自分を信じてがんばれ、くじけるな、と励ましたかったのです。

校長として全校生徒に話を

する際は、自分を信じる、ということについて話しました。自分も知ることのできない未知の自分によつて私という存在は支えられている、その力を信じる、ということ。自分をこういうものと限界づけることなく、自分に対して柔軟に、そして大らかに構えてほしいと思いました。

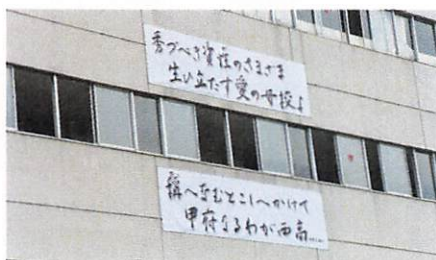
母校西高での経験や思いが温かな記憶となつていつまでも残り、西高で学んだ全ての人たちを生涯応援し続けてほしい、と心から願っています。甲府西高の益々のご発展をお祈り申し上げます。



下飯田に建設中の新校舎
(男女共学の1期生として入学しました)



「きょうは校長室で昼食会」のひとつ
(集まってくれた心優しい西高生たちです)



二高から西高に受け継がれた校歌
(「第二高校」が「わが西高」に変わりました)

Be resilient , and go through an unpredictable society

2013 » 2023

平成25年～令和5年

Here are International Baccalaureate introductory!

TOK
Theory of Knowledge

歴史
History

IB.?
なに?

CAS
Creativity, Action, Service

言語と文学
Language and Literature

化学
Chemistry

Visual Arts
Visual Arts

数学
Mathematics

IBのリーフレット
IB生制作の『IB紹介リーフレット』オープンスクール時に中学生に向けて配布

困難の中でも自主性を失わず努力し続ける 甲府西高生



授業の風景
1人1台端末(BYOD)を使った授業

平成25年、ホームルーム教室にエアコンが設置されました。平成28年6月、本校に国際バカロレア教育を導入することが正式決定されました。平成30年4月、生徒一人ひとりの興味・関心に即した学びへの対応や、論理的思考力や課題解決能力の育成を狙って、「鳳凰学」(総合的な探究の時間の本校における名称)における課題研究論文の指導が全生徒を対象にスタートしました。平成31年4月、国際バカロレア (International Baccalaureate、以後IB) 機構により、IBワールドスクールに正式に認定されました。これに合わせて、北館4階に新たに「IBラーニングスペース」が整備されました。また、課題研究論文を始めとする探究的な学びの更なる発展のために岡本尚也先生をお招きし、今後毎年恒例となる講演会の第1回目を実施しました。令和3年1月、前年度まで実施されていた大学入試センター試験に代わって大学入学共通テストが実施され、本校からも多数の生徒が参加、希望する進路に向かって挑戦しました。4月より

歴代校長



第33代
深沢 幸一



第34代
小川 巖



第35代
斉木 邦彦



第36代
手島 俊樹



第37代
初鹿野 仁



マスクの生徒の写真
約3年間新型コロナウイルス感染症に苦しめられました



検温丸
日課の検温報告が簡単に！
本校生徒が「検温丸」を開発

IBフルディプロマのカリキュラムが本格的に開始し、世界水準の新たな学びがスタートしました。5月には、IBの手法を生かした課題研究論文の取り組みなどから、三菱みらい育成財団のプロジェクトに参加することが決定しました。令和4年、IBの更なる豊かな学びのために、南館4階に「IBラーニングスペース2」が整備されました。三菱みらい育成財団のプロジェクトの一環で、3月には生物学者の福岡伸一氏の講演、10月には漫画家の山崎マリ氏の講演が行われていました。著名な人物による示唆に富む講演を、生徒は目を輝かせて聴いていました。令和5年10月、本校創立120周年を記念した記念式典が盛大に執り行われ、ジャーナリストとして著名な池上彰氏の講演も行われました。120周年記念事業として、化学実験室と選択教室3室と書道室にエアコンが設置されました。（化学実験室と選択教室3室は前倒しで設置）。また、北館3階に、新たな学びのスペースとして「ラーニングスペース120」も整備されました。

歴代校長



第38代
高見澤 圭一



TOKとは…

Theory of knowledge(知の理論) 身の回りに幾多存在する答えのない疑問について議論していく授業。自分の周りに溢れる疑問について明解な答えは出なくても、考えて考えて考えることで人生の価値がより深く大きくなったことを感じます。社会に対する関心も高くなりました。言葉の定義づけが非常に大切で、普段使っている言葉の曖昧さを実感させられます。例えば、「言語」とは何なのか、動物が話す言葉も言語に含まれるのか。「歴史」はどこまでの範囲のことなのか、過去との違いは何か…等。「事実」と「真実」など似ているようで異なる言葉を自身で定義し、違いを明確化したことで少しの言葉の違いにも敏感に、使い分けることができるようになりました。どのように知識や価値観は形成されるのかを知り、自分自身の価値観のルーツを知ったことでバイアスをなくし、より客観的な考察ができるようになりました。(生徒の声から)



CASとは…

・Creativity(創造的活動) Activity(身体的活動) Service(奉仕的活動)の各分野で、関心がある活動を自分で計画して行う体験的な学習。中学生に西高とIBを知ってほしいという思いから、学校紹介動画制作も企画しました。自分と向き合い、仲間と協力して、新しいことに挑戦し、一步を踏み出す力が大切だと学びました。また誰かのために役に立てるような「真のニーズ」に応える企画を立てて実行したいです。(生徒の声から)

年表

平成25年4月

(2013)

平成31年4月

令和3年4月

令和5年

(2023)

女子制服改定

国際バカロレア認定校となる

国際バカロレア デイプロマプログラム開始

120周年事業で

・選択教室・化学実験室エアコン設置(R2)

・清掃用ポリッシャー購入(R2)

・書道室にエアコン設置(R5)

・ラーニングスペースの整備(R5)

